



Report

原発事故から7年 — 福島巡礼『いわき放射能市民測定室たらちね』

文 Misao Redwolf 首都圏反原発連合

福島原発事故から7年以上の月日が流れた。子どもたちの未来を守るために、放射能測定や甲状腺検診などの活動を続ける、福島県いわき市にある「認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね」を訪ねた。

「たらちね」の事業



「たらちね」は子どもたちの未来を守るために、出来うる限りのことを模索し実施してきた。新事業を展開するたびに、機材の購入などに大変な額の資金と、新しいスキルが必要になるが、「たらちね」の思いが多くの人々の心に響き、全国からの善意の寄付や助成金が寄せられ、運営が維持されている。子どもたちの未来を守りたいという思いが、全国、全世界から寄せられているのだ。

「たらちね」の多岐に渡る事業の中で、主なるものを紹介する。

放射線の測定事業 全身放射能測定／食材放射能測定／土壤放射能測定／資材・植物放射能測定／Cs 137 リンモリブデン酸アンモニウム吸着法／ストロンチウム90ヒトリチウムの放射能測定／たらちね海洋調査／児童施設ダストサンプリング測定

測定データの公開と広報 HP、Facebookでの測定結果の公開

放射能から人々の健康を守る事業 たらちね甲状腺検診プロジェクト／たらちね・こども保養相談所

たらちねクリニック 通常の保険診療に加えて、子どもたちが無料で受けられる人間ドック「こどもドック」を運営。被ばくという観点で健康を総合的に診られる、日本で唯一のクリニック。子どもと親の心のケアにも着目している。

ひとりの意識がかわればそれは連鎖していく

「たらちね」のスタッフのほとんどは、子どもがいる女性だ。その中から、ガンマ線・ベータ線の測定担当の木村亜衣さんにお話を伺った。入所当時は放射能についての知識も無く、事故から2年経ち放射能のことが忘れられてきている空気に入っていたと言ふ。初めて食品から放射能が検出されたのを見た時、カルチャーショックを受けたそうだ。

放射能の数値が目の前で可視化されたことで、漠然としたものがクリアになり意識が変わった木村さんが、これもあれも食べられない、どう暮らせばいいのかと考えてようになつた。同時に、日々の暮らしの中でさりげなく、家族や身近な人たちに放射能のことを伝えはじめたが、自分の意識が変われば、周囲の人の意識も変わることを感じた。

ある時、木村さんは母親に、タケノコから放射能が検出されたと話した。それを聞いていた娘が、友達のお弁当にタケノコが入っていたけど、自分はもらって食べなかつたと言ってきた。「親の意識が変われば、子どもの意識も変わってきます。ひとりの意識が変われば、それは連鎖していくんです。そこで何かが守られていくのだと思います」と、木村さんは語ってくれた。

「たらちね」という活動

「たらちね」は被ばく後の世界で、放射能を数値として可視化し汚染の実相を知ることで、予防可能な貴重な時間を有効に使い、未来に繋げている。鈴木薫さんは語る。「たらちね」という活動を通じて色々考

えるのですが、社会全体として、子どもたちが健康でのびやかな心ですぐと育ち、地球環境と調和して生きることを目指すのが、全ての問題の解決策ではないかと思います。」

「私たち市民がここまで活動をやらなければいけないのはおかしいとも思います。原発に無関心だった自分たちにも責任がないわけではありませんが、政府は今でも原発の再稼働をしています。また必ず事故があることはわかっているのに。」

「たらちねクリニック」の藤田操院長に現政権のことをたずねてみた。「早く辞めてもらいたいです。現政権はオヤジの政権で、これに対抗するには母的なやさしさに可能性があると思うんです。「たらちね」は母的な運動。オヤジ政権とは土俵が違うこともあり、絶対に負けないんです。「たらちね」はいのちを見つめていくという運動体なんです。」

最後に、「たらちね」の名付け親で放射能測定アドバイザーの遠藤藤一さんが、「たらちねクリニック」開設時に詠んだ『野の道』という詩を紹介したい。この短い詩は「たらちね」という活動そのものであり、そして、「たらちね」が願うことが、穏やかにじんわりと美しく沁みでいる。

『野の道』

野の道をとのへよう 子らが行く路 樹々もあれ、
野の花々 かたはらに蜜も虫も
裸足よ歩けば ひたひたと 死んでゐるひとたち うたを唱へば
かやかやと 未だ生まれぬもの等にも 韶き伝はる 生きてゐる音
野をならし 道をとのへよ 子らが通ふ野の道 はるかむかうを見るあたり
たらちねクリニック開設にあたり

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室たらちね

「たらちね」は今年で開所から7年になる、国内で最も信頼のおける放射能市民測定室だ。福島原発事故の後、食品などの放射能汚染を懸念し、子どもたちの未来を守ろうと、いわき市議の佐藤かずよしさんが設立を呼びかけた。それに鈴木薫さんらが呼応し、2011年11月13日、福島県いわき市に、市民による放射能測定室が誕生した。

最初はセシウムなどガンマ線のみ測定していたが、これだけでは汚染の実相を知ることができないという壁にぶつかり、トリチウムやストロンチウムなどベータ線を測定するベータ線ラボを開設した。市民の測定室でベータ線の測定をしているのは「たらちね」だけだ。2013年からは甲状腺の巡回検診活動を開始し、2017年5月には「たらちねクリニック」を開院した。

事務局長の鈴木薫さんは語る。「見えない・おわない・感じない」放射能の話題は分断を招きます。測って数値を可視化し、議論できる材料をテーブルにあげることで、分断を緩和できます。原発事故で失ったものは多いけど、これ以上失わないために、放射能汚染の実相を知り、気をつけ、予防していくことが大事なのです。」

Statement

7/27 金曜官邸前抗議は300回を迎えました！

ステートメント

『再稼働反対！首相官邸前抗議』（金曜官邸前抗議）開始から300回を迎えて

首都圏反原発連合（反原連）の軸となる活動である、毎週金曜に首相官邸前・国会正門前で開催している『再稼働反対！首相官邸前抗議』（金曜官邸前抗議）は、2018年7月27日の抗議をもって、開始から300回目を迎えました。『金曜官邸前抗議』は、福島原発事故当時の民主党政権が関西電力大飯原発の再稼働の政治判断をするための、首相官邸での4閣僚会議への抗議として2012年3月29日に開始し、それ以来、6年4ヶ月のあいだ毎週開催しています。

2012年6月から7月にかけて抗議参加者は20万人に達し、同年8月には、反原連のメンバーが当時の野田首相と官邸内で面談するなど、抗議参加者とともに世論を喚起しました。間もなく、全国の運動や圧倒的脱原発世論が反映され、民主党政権は「2030年代原発ゼロ」を決定し緩やかに脱原発へ舵を切りましたが、その後後に政権交代が起り、原発推進の自民党と公明党による安倍政権が誕生したことにより、脱原発への道が陥くなりました。

2018年7月に閣議決定された『第5次エネルギー基本計画』においても、安倍政権はこれまで通り原発維持・推進の計画を打ち出しました。2011年の福島原発事故の経験から、国民世論は脱原発を求めており、海外でも脱原発・再生可能エネルギー推進の流れが大きくなる中、一部の既得権益者へ利益誘導するだけの、愚かな政策障害としか言えません。また、国内の原発再稼働だけでなく、海外への原発輸出にも躍起になる有様は言語道断です。

2018年7月27日
首都圏反原発連合 - Metropolitan Coalition Against Nukes -

Walk and Talk it



隠蔽される原発事故の過去と共に生きる「権利」—— 映画『赤い天使』

増村保造監督『赤い天使』の舞台は第二次大戦中の中国だ。両腕を戦闘により切断された折原（川津祐介）は陸軍病院で看護婦の西（若尾文子）にこう告げる。【内地への帰還は諦めています。両脚を切られた兵隊が内地に帰され、箱根の病院に送り込まれて家族にも会えません。一生飼い殺しになるらしい。僕も同じ運命です。この姿を内地の人が見たら戦争は悲惨だ。嫌なものだと、怪我人が多いから負け戦だと思う人もいる。それは困ると陸軍の上層部は考えているんだ】。

7/12、内堀福島県知事は東京五輪の聖火リレーが福島県を出発、第一原発がある浜通りもルートに含め

るよう検討中、と報道された。事故をなかつたことに対するためか、戦時中の負傷兵のように、原子力規制委は避難指示区域、避難指示解除区域以外の地域のモニタリングポストの撤去（不可視化）を決定、が、西郷村は村議会が中止を求める意見を国側に提出、撤去は中止となった。

たとえオリンピックが東日本で開催されようが聖火が浜通りを通過しようが、未だ故郷に帰還できない人々がいることに変わりはない。脚を切断された人間に堂々と生きる権利があるように、国策で隠蔽されようとしているが、私たちには原発事故の過去と共に生きていく「権利」が存在するのだ。（TH）

RECORD THE POWER OF THE PEOPLE!



2012年8月22日(水)

首都圏反原発連合『野田首相に対する直接要求・勧告行動』

反原連は「金曜官邸前抗議」開始時より、政府との接触を求めて回路を模索してきましたが、2012年6~7月に20万人の人々が抗議に集まつたことで、官邸での首相面談が実現。面談では大飯原発および全ての原発の再稼働中止、全原発廃炉政策への転換などを訴えたほか、福島の団体や母親、子どもの被ばくを考える団体の申し入れ書も提出。面談は反原連の交渉により、官邸HPから生中継配信されました。同年9月、民主党政権は「2030年代原発ゼロ」政策を打ち出しました。

編集後記

オム真理教7名の一斉死刑執行、その前日の安倍首相と法相が主役の宴会、安倍政権は「異常」を超えて「獵奇的」。また、宴会当日には西日本に豪雨警報がでており、それも顧みずの宴会には批判が殺到。国民の安全を第一にしない政権の姿勢が可視化されました。

福島原発事故を経てもなお、原発を推進する姿勢も獵奇的ではないでしょうか。森友・加計など多くの問題を起こしながら、安倍政権を存続させる自民党に自浄作用はないのでしょうか。9月の自民党総裁選に注目。原発ゼロ新政権の誕生を！